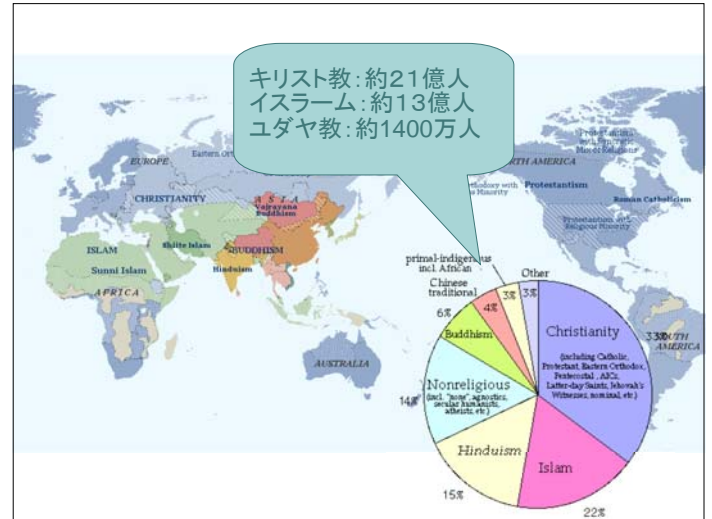


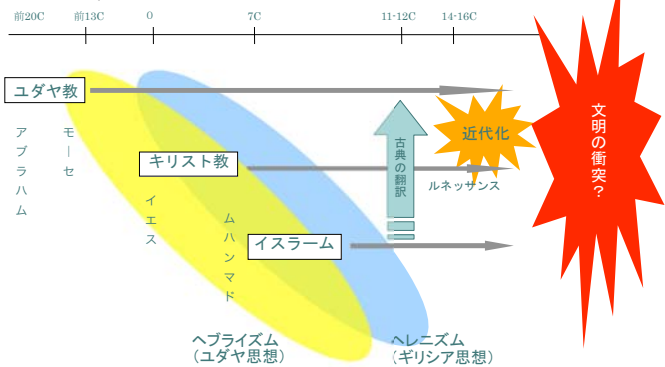
一神教と暴力・平和

宗教 Religion

一神教 Monotheism/ Monotheistic (Abrahamic) Religions



一神教の文明論的系譜



世俗化

宗教復興



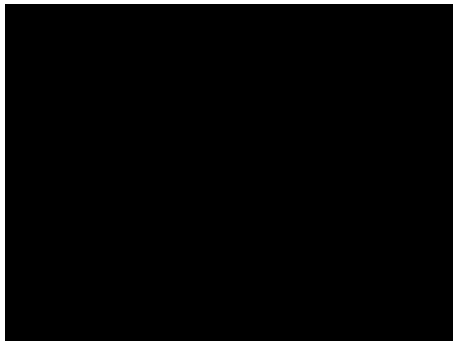
Riligions in the U.S.

7



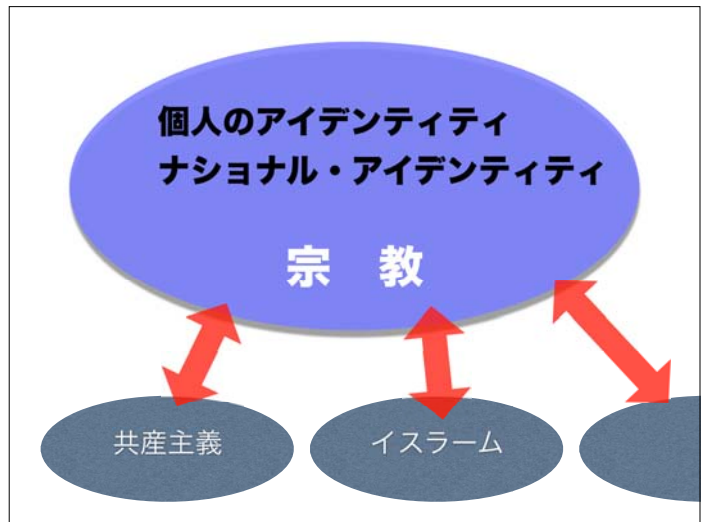
Pilgrim Fathers

8



Gallup Poll, June 23, 2006

9



10

Obama Cairo Speech, June 4, 2009



<http://www.whitehouse.gov/blog/NewBeginning/>

11

日本における一神教理解



12

1. ユダヤ教・キリスト教・イスラームはただ一人の神を信じる宗教であるから、対立・衝突を避けることができない。
2. 現代世界の問題は一神教（文明）に帰するところが多く、（日本の）多神教（文明）こそが一神教的思考の限界を乗り越え、問題解決に貢献すべきである。
3. 一神教は排他的・独善的・好戦的・自然破壊的であるのに対し、多神教は包括的・協動的・友好的・自然と共生的である。

13

グローバル化と「ファンダメンタリズム」の動向に対する洞察

近代化やグローバル化の中に潜む「暴力性」（直接的暴力・構造的暴力）を洞察することが必要である。その上で、それぞれの文化、宗教に根ざした尊厳（誇り）を回復していくことができるようなプログラムを実施し、市民社会を形成していけば、過激な宗教運動を抑止することができるのではないかと。

15

他者理解と自己理解の相互関係

他者の宗教的アイデンティティを尊重するだけでなく、自己の宗教的アイデンティティを的確に説明することが求められる。

国内においては、一神教と多神教の二元論的対比のもとに多神教を称揚する傾向（「多神教主義」）が近年見受けられるが、そうした傾向が生み出されてきた歴史的経緯を批判的に考察する必要がある。また、他者を否定的に描写することによって成り立つような自己理解に対して批判的姿勢を持つ必要がある。

17

平和構築のための課題



14

耐え難い現実の想起

—解放の力としての（疑似）宗教

米国は、世界人口の4%を占めているが、人類の総エネルギーの40%を消費している。他方、世界の近代化にともなって生じてきた負の部分、イスラーム世界に押しつけられてきた。この苦悩の中で正義を求めようとするとき、強力な終末思想が呼び起こされることになる。そこでは殉教すら美化される。このような構造的問題に対し、どのように取り組んでいくべきなのか。

16

参考文献

- * 小原克博・中田考・手島勲矢『原理主義から世界の動きが見える——キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』PHP研究所（PHP新書）、2006年。
- * 森孝一編『ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか——一神教世界の現在』明石書店、2008年。
- * 内藤正典『イスラームの怒り』集英社（集英社新書）、2009年。

18